立志 栗中だより

学校だより第３号
足立区立栗島中学校
校長　　小山　節
令和７年６月１７日

あじさいの咲く６月　　校長　小山　節

初夏の暑さを感じる日や雨が降り肌寒い日が繰り返され、体調を整えることが難しい時期ですが、生徒は元気に学校生活を送っています。また、運動会では、多くのご来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様に生徒の活躍する姿をご覧いただき、ありがとうございました。

話は変わりますが、５月１９日に生徒総会を実施しました。栗島中学校の生活について、全員で議論する場であり、大変大切な機会として捉えています。楽しい学校生活を送るために必要なことを発表し、確認し合い、主体性を育てていきます。疑問や質問を明らかにし、自ら進んで活動していくことを確認することができました。

今年の第４５期生徒会のスローガンは「自率楽心」です。生徒会役員の皆さんが考案しました。「自」はみずから　自分の　自分自身で　自分から　です。「率」を使った熟語に「率先垂範」そっせんすいはんがあります。意味はリーダーが先頭に立って物事をすすめ、手本を示すことです。「楽」はゆとりをもって物事を進めるということを表しています。「心」は目に見えるものではありませんが、知覚・感情・理性などを指します。この言葉から、一人ひとりが模範を示し、感情を豊かにし、居心地がよい学校にしようという強い決意を感じます。今まで受け継がれてきた栗島中学校の良い伝統を生かしながら、少しずつ学校全体が進化することを強く願う気持ちを頼もしく感じています。

続いて、学級委員からクラスの目標を発表しました。仲間と共に楽しい学校生活を送りたいという思いをこめる姿が印象的でした。これから、有意義な学級での生活を送ってほしいです。

学校全体で生徒の主体性を育成できるように支援していきます。

生徒会より～今年度大切にしたい４つのこと～
① 自分の役割に責任をもって取り組む
② 生徒一人一人がみんなを引っ張っていく気持ちをもつ
③ ルールを守り、楽しく過ごす
④ 思いやりのこころをもつ

〈６月の主な行事〉詳細は月行事予定をご覧ください。
２３日（月）・２４日（火）到達度確認テスト　＊２３日（月）は給食なし
２５日（水）３学年領域診断テスト
２５日（水）・２６日（木）・２７日（金）２学年職場体験
２６日（木）・２７日（金）５組日光宿泊学習

5月19日（月）避難訓練 集団下校の確認

不審者対応などの非常事態に備えて、地域別の班を編成し、集団下校の班員や経路を確認しました。今回は地震時の行動、地震直後の行動、地震後の行動について、学習しました。揺れを感じ、緊急地震速報を受けたときは、自分の命を守ることが第一です。地震直後の行動で気をつけたいことは、けがをしないことです。屋内であれば、転倒した家具やガラスの破片に注意し、揺れが収まったときに、避難ができるように出口を確保します。ラジオやテレビなどから正しい情報を得てから、一時集合場所や避難場所に避難します。ご家庭におかれましては、生徒と地震時の行動について、話し合っていただきたいと思います。

5月29日（木）～31日（土）修学旅行

3年生は2泊3日で奈良・京都方面へ修学旅行に行ってきました。実行委員が考えたスローガンは『唯一無二～大仏よりも大きく、金閣寺よりも輝く思い出を!!!』です。大仏よりも大きく、金閣寺よりも輝いて、誰一人嫌な思いをしないように楽しい思い出を作ってほしい、実行委員のそんな思いが込められています。

そんな思いに応えるかのように、2泊3日間協力して過ごすことができました。集団行動の中で、自分の役割を自覚し、自主性や主体性を高めることができました。学校生活では見ることができない仲間の良さを発見することができた人も多くいたことでしょう。そして、お世話になった様々な方々に感謝の気持ちを持つことができたことでしょう。様々な学びを今後の生活に活かし、最上級生としてあるべき姿を後輩に示してほしい、そう願います。

6月7日（土）第45回運動会

天気にも恵まれ、令和7年度第45回運動会を無事に行うことができました。朝から30度を超えるような暑さの中でしたが、生徒は最後まで元気いっぱいで、これまでの練習の成果を充分に発揮することができました。

今年度のスローガンは「共に～創ろう熱い友情の物語を～」でした。スローガン通り、熱い闘いが繰り広げられ、各学年絆が深まりました。特に、3年生にとっては最後の運動会、強い思いが伝わりました。本番前日には、放課後に栗中ソーランの練習をする3年生の姿がありました。修学旅行の日程と重なり、思うように練習ができず、100%に近づけることができずに焦る声も聞かれましたが、今できる精一杯の努力をし、本番を迎えた3年生に拍手を送ります。結果ではなく、どれだけ頑張ったか、その過程が大切であることを学んだ運動会であったことは間違いありません。1・2年生はそんな良き伝統を受け継ぎ、来年度につなげることができたら素敵です。